

出席者：越島(四街道)・傍島(柏)・猪狩(下丸子)・宮崎(赤いくつ)

島田(浦安るーべ)・松島(のあざみ)・菅野(こだまの会)・奥野(鶴見ルーペ)

松宮(視援奉)・小堀(豊明)・當眞(越谷)・深味(赤いくつ)・由井(こだまの会)

亀村(視援奉)

日時：2024年9月25日(水)14:00~15:30

審議事項

* 柏・傍島さんが、盲学校での弱視生徒の拡大教材の利用状況を質問、回答について報告

拡大教科書と拡大読書器を併用、または、デジタル教科書を使用など、生徒により個々にあったコンテンツを使用している。

操作について、タブレットの練習はしてる。個人差はあるが、すぐに使いこなす。普通級での学習を考えると、操作に若干時間がかかると思うので、サポートが必要。紙の教科書は、操作に慣れていない低学年を中心に、やはり大切だと思う。

* 9月23日付、読売新聞より (朝日新聞8/26付にも同様の記事あり)

小中学校の英語の授業でデジタル教科書のみを使って授業を行う教師の割合が3%にとどまる。紙とデジタルの併用が88%となった。通信環境の不備により、タブレットの起動に時間がかかったり、紙の方が集中できる等、多くの教員が紙の教科書を支持している。

上記2点の報告を受けて

* 他地域でも同じような質問状を送り、現場の先生の声を知りたい。

* 紙の教科書はまだまだ必要。

* ディスレクシアの利用者に対する拡大教科書製作グループより、報告があった。

今年度、本文24p・ルビ14pの総ルビの依頼があったが、来年度は本文14p・ルビ7pの依頼に代わった。遠方の学校で本人にも会えず、学校とのやり取りを繰り返して今年度の残りの分冊についてはフォントサイズを落として、作り変えている。学習障害の児童・生徒からの拡大教科書製作依頼が増える中、ロービジョンの拡大教科書とまた違った観点で配慮した教科書を作る難しさを共有した。

次回のZOOMは2024年11月27日(水)14:00~の予定です。